

2016年2月12日

日本ユニシス
 NTTソフトウェアの「特権 ID 管理ソリューション」が、福島銀行で利用開始
 - 業務システム管理の要となる「特権 ID」の管理負荷とコストを大幅に削減 -

日本ユニシス株式会社（本社：東京都江東区、社長：黒川 茂、以下 日本ユニシス）は、株式会社福島銀行（本店：福島県福島市、社長：森川 英治 氏、以下 福島銀行）に、エヌ・ティ・ティ・ソフトウェア株式会社（本社：東京都港区、社長：山田 伸一 氏、以下 NTT ソフトウェア）が提供する「特権 ID 管理ソリューション」を導入しました。福島銀行では1月から本ソリューションの利用を開始しています。

福島銀行は、中期経営計画『ふくぎん本気（マジ）宣言 ～ウォーム・マネーの福島銀行』において「顧客・地域を強力に支援するための基盤・能力・収益力の強化」という基本方針を掲げ、インターネット専用支店「いつでもどこでも支店」の高度化など、IT を活用した顧客満足度の向上への取り組みを実施しています。

その一環として IT セキュリティの高度化に向けた取り組みも継続しており、今回、業務システム全体を管理する要となる「特権 ID」^(注)に関して、その管理の負荷やコストを削減するソリューションの導入を決定しました。

日本ユニシスは、福島銀行のシステム構築パートナーとして本ソリューションの導入プロジェクトに参加しました。

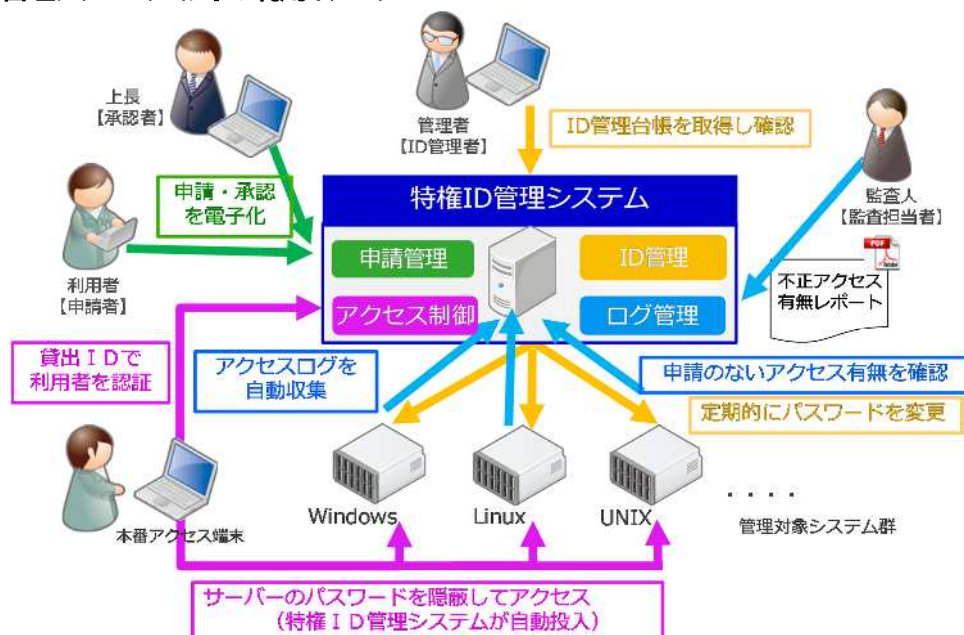
NTTソフトウェアが提供する「特権 ID 管理ソリューション」の主な導入効果は、以下のとおりです。

1. システムの設定変更やメンテナンスなどの作業後に作業用特権 ID が無効になるため、不正アクセスを防止
2. システムが自動的にパスワードを変更するため、ID 管理者の負担が軽減され、不正アクセスのリスクも低減
3. 各サーバーへのログオン情報を統合的に収集するため、不正監査が容易
4. 登録されている ID 一覧情報の確認により無効な ID の削除や不正登録・不正削除された ID の抽出が容易

日本ユニシスでは、今回の福島銀行での実績をもとに、「特権 ID 管理ソリューション」も含めた豊富なセキュリティソリューションに関して、今後さらに販売体制を強化し、新たな受注を目指していきます。

以上

「特権 ID 管理ソリューション」の利用イメージ



注：「特権 ID」

システムの設定変更やメンテナンスなどで利用される、高いレベルの権限を持ったシステム ID。Windows® OS では Administrator、Unix®系 OS では root などの ID のほか、データベースの管理やユーザーアカウント管理を行うためのシステム ID、ネットワーク機器の設定変更などを行うための権限を持った ID などを指します。

権限が強く、複数の関係者で共有して利用することが多い ID のため、取り扱いには厳格な管理が求められます。企業のセキュリティ意識の向上や内部統制体制の強化などに伴い、特権 ID の管理はさらに重要視されています。

関連 URL

日本ユニシスの情報セキュリティサービス「iSECURE®」 <http://www.unisys.co.jp/solution/tec/security/>
NTT ソフトウェア 特権 ID 管理ソリューション <https://www.ntts.co.jp/products/privilege/index.html>

iSECURE は、日本ユニシス株式会社の登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。